

別紙

平成29年度企画提案型協働事業（アイデア審査）
「イノシシ等の獣害対策としての荒れた里山の整備事業」
提案に関する委員会付帯意見

- 1 アイデアの意義は理解できますが、事業計画の作成に向けては、実施区域の地権者との調整方法や、地域住民への周知方法について、十分検討してください。
- 2 一定の事業効果を得るためには、イノシシの生態環境を把握する必要があると思われます。市との協議では、そうした観点からの検討も行ってください。

各委員の参考意見（ふせんの転載）

事業の意義は理解

- ・地域住民のニーズも高いと思われる。
- ・事業内容に具体性が見られる。
- ・里山保全、「大変な作業」かと思うが、実現可能であれば是非進めてほしい。
- ・放棄地と市民の活動をつなぐための実現例として、よい事業になればよいと思います。
- ・提案内容から実現可能性があると感じられます。
- ・長期的な取り組みになると思いますが、ぜひ多くの人々の参画を得ながら実現してほしいと思います。
- ・（要望）美瀬地区のみならず、他地域でも適用可能となるようなモデルケースとして実施して頂きたい。（地権者との調整や行政との役割調整を含む）

地権者や地域との関係に課題

- ・私有地の整理は、地主に負わせるのが一般的。公共事業としては賛成できない。
- ・地権者との調整が先と考える。それが出来てからでないと、審査検討できないと思う。
- ・地権者との調整が今後の大きな課題である。
- ・私有地を保全しようとするとき、その私有地のある地区に働きかけ、地区で情報共有することからはじめることが必要と感じました。
- ・次の審査ステップに向けて、公有地と民有地にまたがる課題に対応するためのルールづくりについて、団体・行政の知恵を絞って、良いアイデアを積極的に生み出していきたいと考えています。
- ・保全作業にボランティアが集まる方法と事例に注目していきたいと思います。

イノシシの生態調査の必要性

- ・整備対象地の選定ルールを行政と協力しながらある程度明確にしていく必要が出てくると思います。イノシシの生態の特徴を踏まえた選定ルールを構築すると今後の活動がしやすくなるのではないのでしょうか？
- ・地域別のイノシシの生息個体数の把握ができていると、対策地の優先順位の決定等、様々なレベルにおける判断に資すると思います。
- ・（要望）イノシシが他地域に移ったり住宅地域に出没するようにならないように配慮して頂きたい。
- ・イノシシの捕獲についても、市と協働して推進して欲しい。
- ・イノシシの生息環境教育ができるといいですね。